

## 輝け 湘南エメラルド

コロナを乗り越え社交ダンス

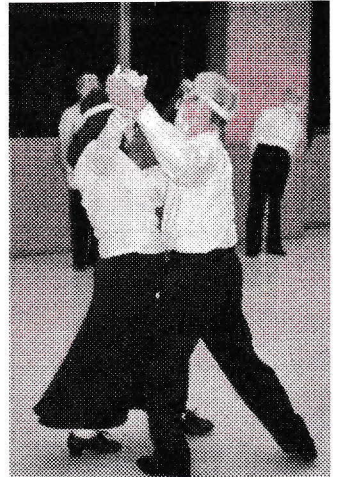
コミュニティセンター湘南が舞台の『コロナに負けない』シリーズ、今回は社交ダンスの『湘南エメラルド』。コロナ禍による1年1カ月のブランクを乗り越えたメンバーに笑顔が戻った。

「お元気」「体重が4キロ増えちゃった」。4月1日のコミセン大会議室に7人の声が弾んだ。新型コロナ感染拡大でコミセンが休館、開館後も活動を自粛していた湘南エメラルドにとって昨年2月以来のダンスだった。「皆さん再開には慎重でしたが、そろそろ踊りたい様子も。コロナ対策を立て、始めることに」と米山智香子・湘南エメラルド代表。

社交ダンスは2人組(カップル)で踊る。濃厚接触は避けられない。マスクは当然、フェイスシールドをかぶり、両手には白い手袋。3拍子の音楽に合わせて大きく回転するワルツ、そしてタンゴ、クイックステップ…。仮面舞踏会的な雰囲気も漂う。



㊦フェイスシールド、手袋で「正装」、㊦㊦1年ぶりでもこの動き



### コミセン湘南で23年

湘南エメラルドの発足は平成8(1996)年。映画「Shall we ダンス?」がヒットし社交ダンスブーム再来の年、競技会に出場するなど活躍していた新倉勉・芳子夫妻が中心となって創立。2年後にコミセン湘南がオープンすると、「床の軟度がダンスにぴったり。駐車スペースが広いのも助かる」(新倉勉さん)と気に入り、以来、茅ヶ崎市を中心に湘南地区の仲間がコミセンに集まってくる。

しかし、10年前のメンバー17人が最盛期。病に倒れたり、家族が高齢での車の運転を心配したりなどの事情で、仲間が減っていった。今回のコロナ禍の最中にも2人が去った。そのうちの1人は90歳近くになってもかくしゃくとしていた男性。新倉芳子さんは「いつまでも明るく元気で、わたしたちの目標でしたのに」と残念がる。

### 70代7人に戻った笑顔

新倉勉さんによれば、社交ダンスの魅力は「健康的で楽しい」ことだそう。現在の湘南エメラルドは新倉、米山夫妻に加藤輝雄、小林洋、隅田勲さんの7人。平均年齢は70歳を超すが、背筋をピンと伸ばし踊る。4月から練習を重ねるたびに動きが軽くなり、健康が戻ってきたことを実感したらしい。

宝石エメラルドの緑色の光には、人を健康に導く力があるといわれる。



いつまでも美しく楽しく

○…米山智香子さんが社交ダンスを始めたのは50歳を過ぎてから。「主人が若いころ、ダンスに出かけるときはいつもウキウキ。きっと楽しいに違いない、私もいつかやろうと思っていました」。念願かなった現在、夫・英雄さんと一緒に湘南エメラルドへ通っている。同会のコミセン湘南でのレッスンは週に1回、午後6時30分から約2時間。興味のある方は電話 0467-85-8691(米山)へ。見学だけでもOK。

★トピックスは裏面



社交ダンスにぴったり大会議室





## 「わくわくらんど」去る人来る人

【3月31日 感謝メッセージ】柳島小学校の6年生6人が、切り絵のサクラ満開「子どもの家わくわくらんど」へ。みんな4月から中学生、コミセン湘南のこの部屋で遊べる最後の日だった。「思い出に何か描きたい」と受付に申し出て、大きな紙にイラスト、漫画、そして「わくわくらんどへ 今までありがとうございます」の文字。またコミセン湘南では、わくわくらんどをより知ってもらえるよう、「あそびにきてね」のチラシを柳島小全生徒に配布。それを片手にやってきた高学年の男子、チラシに掲載のおもちゃ（キッキングスナイパー）で遊んでいた。

## 怖い…地震カミナリ火事コロナ

【4月8日 消防訓練】コミセン湘南では春と秋、毎年2回実施している。館内の調理室での出火を想定し、消火器を使っての初期消火、消防署へ119番通報、館内放送、避難誘導などを行った。さらに屋外に出て、消防署の訓練用水消火器を使っての消火活動を体験。この日はコミセン職員の他に、和室を利用していた5人にも特別参加をお願いした。普段から見慣れている消火器だが、実際に触るのは初めてらしく緊張気味で「とてもいい経験になりました」。ちなみに2021年度全国統一防火標語は「おうち時間 家族で点検 火の始末」です。



## さあ「玄米ダンベル」で筋トレ

【4月15日 ダンベルかえで】大会議室に集まったのは平均年齢70歳の女性たち。ボールを使ってのストレッチ体操の後、両手にダンベルを携えてトレーニング開始。が、このダンベル、鉄製ではない。布地で袋を作り300グラムの玄米を入れたもの。これをしっかり握ることで血液の流れが良くなり高血圧、糖尿病などに効用あり。さらに、12パターンの運動をすることが筋力アップにつながる。市内萩園・鶴嶺公民館でやっていたが、コロナ禍で利用人数制限に。昨年12月、かえでのメンバー20人が入れるコミセン湘南へ移動して週1回、汗を流している。



## 3人の前副会長、お疲れさま

【5月5日 コミセン湘南事務局会議】5月の定例会議のあと、令和2年度でコミセン湘南副会長を退任した渡邊又雄、永野良一、南栄美子さんに職員一同から花束が贈られた。「私が事務局に入った8年前はパソコン1台だけ。OA化に努めたことと、コミセン湘南の土足化が思い出かな」と渡邊さん。永野さんは「昨年、子どもコミセンまつりがコロナで中止。普通のことができる日常に早く戻ってほしい」。前推進協会会長でもある南さんは「今後も地域と小・中学校のパイプ役とし頑張ります」。後任の副会長は高山和茂、塩崎弘禮、森英子の3氏。



## 自転車に乗ったら「キープレフト」

【5月16日 KEEP LEFT】「自転車に乗ったら左側通行を」と呼びかけるキープレフトプロジェクト（南八重智子代表）が2014年に茅ヶ崎で始めた運動。コミセン湘南では4年ぶり2度目の開催で、柳島小の1年生から5年生までの8人が参加した。KEEP LEFTとデザインされた台紙に好きな絵を描き、色付けをした後にラミネート加工。この日、自転車で会場に来た子はさっそくオリジナルプレートを取り付けていた。



【あとがき】社交ダンス「湘南エメラルド」が勇気を出してコミセン湘南で練習再開。茅ヶ崎市主催の「転倒予防教室」は5月25日に再スタート、「歌体操教室ねぼし」も再開の準備をしています。コロナ禍でもやれることをやり、作家・吉川英治の座右の銘でもあった「朝の来ない夜はない」を信じた。